



国際ロータリー第2600地区

上田六文銭ロータリークラブ

Rokumonsen Rotary Club



2015-16年度
国際ロータリー会長
K.R “ラビ” ラビンドラン
第2600地区ガバナー 望月 宗敬

【事務局】

〒386-0025 長野県上田市天神 4-24-1 上田東急REIホテル3F
TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002
http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/

《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30
《例会場》上田東急REIホテル2F
《創立》1997年2月18日

●会長 西澤 文登 ●幹事 横沢 正 ●会報委員長 松澤 一志 ●副委員長 中澤 信敏 ●委員 柄澤 堯/鹿志村 恭彦

例会日誌

司 会	生川 秀樹君
開会点鐘	西澤 文登君
齊 唱	「上田六文銭 RC の歌」
ラッキー賞	
提供者	西澤 尚夫君 台湾土産 ジャスミンティー 北村 久文君
委員会報告	
「車両紹介のご案内」	
	生川 秀樹君
プログラム	「ゲストスピーチ」
	長野大学 学長 中村英三様



きました。今日は句のお話をさせていただけたと思います。

長野大学様と上田六文銭 RC は浅からぬご縁です。平成 9 年に当クラブは創立されましたが、その創立会員に時の長野大学学長・北澤 博先生が名を連ねておられました。駒ヶ根のご出身で、とてもお人柄がよく、私どもは薫陶を受けました。ご退職後は常任理事として大学の事務方のトップを務めておられた田崎 智さんが会員で後を継がれました。ゴルフがお上手でユーモアのある方でした。

そもそも長野大学様が会員として入られたのは私どもの六文銭 RC の特別代表・母袋恭二様が当時長野大学の理事長でいらっしやっただからです。今長野大学様は無借金経営をされていると伺っておりますが、その体質を形成したのが母袋理事長の力だったと聞いております。笠原さんの奥様・世為子様も長野大学の評議員として十何年かお勤めでした。

長野大学様は地域に有為な人材を与えてくれるだけでなく、市民講座など地域と密着した活動も盛んにしておられます。公立大学として基盤をしっかりとさせて、ますます上田地域に貢献していただけるものとご期待申し上げます。

いよいよ今年度もあと 1 回の例会を残すだけとなりました。年度の前半はクラブのあり方について議論を重ねました。どうなるのかと心配な面も多々ありましたが、皆様のご協力を得て何とか 1 年過ぎそうです。来年は創立 20 周年です。元気に 20 周年を祝おうではありませんか！

会長挨拶

長野大学中村学長をお迎えして

西澤 文登君

今日は齊藤恵理子さんの紹介で長野大学の中村英三学長をゲストとしてお招きすることができました。ありがとうございます。

長野大学様は皆様すでにご存じの通り上田市を母体とする公立化に移行しようとしてあります。上田市議会でも委員会は通ったと今日の新聞でも報道されていました。中村学長はその真ただ中にあり、時の人として大変お忙しい中をご都合していただ





幹事報告



齊藤恵理子君

1. RI より
 - ・ the rotarian 6 月号
 - ・ 2016 年規定審議会 決定報告書
 - ・ 改正された組織規定文書について
2. 米山奨学会より
 - ・ ハイライトよねやま 195 号
3. 地区事務所より
 - ・ 規定審議会参考資料

全会員配布物

1. 当クラブ会報 第 895 号

その他

1. 次週 6/28(火)は最終夜間例会です。

出席・ニコニコBOX報告



鹿志村恭彦君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	23	5	-	78.26%
前々回	23	7	4	86.96%

会員一同 中村学長、本日はお越しいただきまして、ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

- | | |
|--------|--------|
| 肥田野秀知君 | 飯島 俊勝君 |
| 笠原 一洋君 | 柄澤 堯君 |
| 鹿志村恭彦君 | 松澤 一志君 |
| 宮原 宏一君 | 水野 泰雄君 |
| 中澤 信敏君 | 中沢利樹男君 |
| 西澤 尚夫君 | 西澤 文登君 |
| 生川 秀樹君 | 齊藤恵理子君 |
| 杉山 裕君 | 田中 栄一君 |
| 山田 豊君 | |

プログラム



ゲストスピーチ

長野大学学長

中村 英三様

このたびはゲストとしてお招きいただきましてありがとうございます。

会長さんのお話によりますと本学の先輩役員が貴クラブにお世話になっていたこともお聞きして歴史と活動に対する共感を抱き



ました。
長野大学は開学 50 年を迎えて新たな転換期を迎えておりますが大学教育に対する所感を述べさせていただきます。

私たちの生きる社会はますます複雑になり、未来はさらに不確なものになっています。このような社会では「自ら学び」、「自ら考え」、「主体的に判断」することがより必要になっています。大学が社会の要請にこたえるためには、講義中心の知識刷り込み型の教育だけではいけないと長野大学は考えております。そこで長野大学ではゼミナール中心の少人数教育を前面に掲げ、少人数教育の中での対話と討論を通じ、学生と学生、学生と教員がともに未解決の問題に協働して取り組み、できなかったことができるようになる喜びを共に分かち合う「協働学修型」の教育へ大きく舵を切っております。この教育方法は、自分の考えを自らの言葉で述べ、他者の意見を聞くことが大切であり、このような学びの中からそれぞれが思いがけない「視野の拡大」をすることができます。対話と討論の訓練を積むことにより、自分自身が直面している課題に対して「何かがおかしい」とか、「なんとなく違和感がある」という「感じ」を自らの力で表現できる人材が育まれます。この問題の所在を明晰に表現できる人材こそが真に地域社会に必要な人材だと考えています。困難に直面しても「打たれ強い」人材を育成していきます。

終わりに、公立化になりましたら市民の大学として誇れる大学像を目指して参る所存であります。本日はありがとうございました。

